

【研究室紹介】

被服衛生学研究室を主宰するよろこび

前田亜紀子

共立女子大学家政学部被服学科

はじめに

本誌 39 号(2020 年 3 月発行)に海外レポートを寄せた 2019 年末、不確かな情報に身をひそめながら台湾の下宿先で異様に静かな春節を迎えていた。そのうち日本への帰国便が途絶えるとの情報から航空会社事務所に並び 2020 年 2 月 閏日に戻った。マスクが入手できないだろうと分けて下さった台湾人のやさしさに何のお礼もできぬままコロナ禍の 4 年があつという間に過ぎた。

デジタル化の波

諸事情あり、2020 年前期は非常勤講師として共立女子大学に出講し、2020 年後期の着任となる。教育機関をはじめ、どこもかしこもそうだったが、2020 年 3 月は新年度をいかにスタートするか、デジタル化のシステム取り扱いに右往左往していた。アナログな私は、双方向型授業や課題の設定、評価は、教室で対面授業を行う以上の事前準備と事後処理が必要であることを痛感した。これにより両肩五十肩となり、着替えも寝返りも不便極まりないことを実感した。そのような状況は教員だけではなく学生も同じで、デジタル環境の格差や四六時中、PC やスマホの画面をにらめっこする生活を強られることは、若者にとって心身ともに、いかに苦痛であったかと思ひ起こされる。

海のものとも山のものとも

学生にとって研究室所属は大学生活とその後にも関係する(かもしれない)最大の関心事だろう。講義や実験を履修してはじめて指導教員のクセなど知るところ、新任教員のしかも新設研究室の門下をたたいてくれた一期生の勇気に感謝する。理由は皆、募集テーマにあった「サステイナブルファッション」とのことだった。着心地のよい衣服は生活をスマートに循環させ、SDGs に結びつくという、被服衛生学の概念を盛り込んだ卒業論文を見事に完成させていった。

現在の担当科目は、被服衛生学、環境学概論などの講義系科目の他、1 年生対象の基礎的な構成実習がある。昔とった杵柄と言えない乏しい経験に加え、密を避けるため 1 学年を 8 分割して LMS への動画設定とハイブリット実習とする最善策で何とか切り抜けることができた。これもひとえに丸田直美先生や優秀な助手さんのアイデア、サポートのおかげである。

被験者好きが高じて

実践女子大学で飯塚幸子先生と被服衛生学に出会い、山崎和彦先生(2024 年 3 月定年退職)や当時助手でいらした永井由美子先生(現大阪教育大学教授)にご指導頂き、秋田、仙台、名古屋、福岡など、夏期セミナーに参加することは毎年恒例の楽しみの一つだった。

倉敷児島で開催の折は、当時お茶の水女子大学の田辺新一先生(現早稲田大学)門下生でいらした西原直枝先生(現日本女子大学)が合流するご縁が今に至っている。研究室の先輩で当時大学院生だった水野一枝先生(現和洋女子大学)の睡眠実験をはじめ、カネボウ化粧品の村上泉子さん(現花王(株))の皮膚性状に関する研究など、実験室や人工気候室は常に稼働し活気にあふれていた。

現在日本でこの研究室名を冠するのは、調べた限り現部会長の潮田ひとみ先生が主宰する東京家政大学と当室のみだろう。目標は、ゼミ生が研究室に入り浸り、研究はおもしろいと感じ、学会やセミナーで全国、海外のあちこちへ一緒に旅することである。

<連絡先>

〒101-8437 東京都千代田区一ツ橋 2-2-1
共立女子大学 家政学部 被服学科
前田 亜紀子 (Akiko MAEDA)
TEL: 03-3237-2437 (研究室直通)
E メール: amaeda@kyoritsu-wu.ac.jp